

住民主体の支え合いが生んだ高齢者等交通弱者支援

全国的にも課題になっている移動の問題を住民自らが地域の課題とし、行政や福祉の分野を動かし、事業を発足させるまでに至りました。実行委員会には実際に、移動にハンディのある地域に住んでいる方をメンバーに据え、よりニーズに即した形の協議体を立ち上げることに成功した事例です。



出発！かっぱちゃん号

～住民主体の支え合いが生んだ高齢者等交通弱者支援～

【岩手県遠野市土淵町の概要】

人口1,953人、高齢化率44%

18の集落自治会があり、郷土芸能も5団体残存しており、地縁自治が根強く残っている地域。柳田國男に「遠野物語」を著すきっかけを与えた民俗学者の佐々木喜善の生家もあり、遠野物語に登場する各所を資源とした民話と農村文化の伝承をテーマとした地域づくりを行っている。



民俗学者
佐々木 喜善

土淵町では自家用車が主な移動手段で、免許返納者や身体の弱い高齢者は市街地に移動する手段が無い事が、町では大きな問題となっていた。

主な原因

- ①バス停までの距離が長い。
- ②タクシーは料金が高額。
- ③食品・日用品を買い求める店が無い。

《地域ケア会議をきっかけに検討委員会が発足》

行政の関係機関や社会福祉協議会、福祉事業者や住民などが参加する地域ケア会議にて課題を協議し、様々な機関からの情報提供や意見を得て、「土淵町検討委員会」が発足。活発に意見が出せるように少人数で交通課題が顕著な地域に住むメンバーで構成され、交通支援についての勉強会も開催された。



《より理解を深め、具体的な事業展開をするために視察研修も》



実際に交通支援に取り組んでいる地域を見て、具体的なイメージを浮かせることが出来た。この視察により、町として協力して取り組んでいこうという機運が高まり、賛同者を増やすきっかけにもなった。

そしてついに...

かっぱちゃん号、出発進行～！



交通弱者支援マスコット
かっぱちゃん

令和4年4月13日に出発式開催

初運行は5月13日、利用者、運転ボランティアとともに
事前登録制で料金は無料。利用者の希望日に運行。

